

# 沖縄キャンプ新聞

2007年  
4月20日発行  
自然教育促進会



平成19年  
3月30日  
～4月4日  
実施  
沖縄本島  
今帰仁村  
慶良間諸島  
渡嘉敷島  
沖縄本島  
国際通り

## 広がれ！友達の輪 飛翔け 子どもたち！

今回の沖縄キャンプは、「沖縄の雄大な自然体験」とは別に「地元の子どもたちとの交流」という大きなテーマがありました。初めて親元から離れてキャンプに来た子など、キャンパーの様子は様々ですがやはり、「子どももの力ってすごい！」と毎回キャンプの度に感じます。

子どもたちは、保護者の皆様の心配をよそにたくましく生活していました。なきじんの子どもたちとの交流もその通りです。様々な統計からも保護者が考える子ども様と保護者から離れて過ごす子ども様は、大きな差があります。少子化の中、過保護な環境にある現代の子どもたち。日本の南の果て沖縄を体験した子どもたち、更に経験を積み重ね、世界へと飛翔いて欲しいスタッフ一同、と願っております。



## 出会いと別れ

お世話になったなきじんの友達お別れがつかかったのですがきつとまた会いましょう。今年は、沖縄の子どもたちが来る年です

きつと来年の2月かな？その時には、沖縄キャンプに参加した皆さんにお手紙を出しますよ。

今度は、楽しく雪を通じて交流をしましょう

か。次回は

北海道の自然をお互い

体験しまし

よう。その

日を皆さん

お楽しみに

。。。



## 島人(しまんちゅ)の想い

沖縄に住む人々は、自然と共に生活していることが今回のキャンプや西表の視察を通して理解できたような気がしました。北海道に住む私たちは出かけようと思えば車で、飛行機でどこへでもいけますが島に住む人々は、そんなわけに行きません。海が荒れれば、台風が来れば船が動かず、食料などの物資を手に入れることが出来ないのです。

今回のキャンプでは、帰りの船が出ることが出来ないかもしれないことから、1日早く渡嘉敷島を離れることになりました。

沖縄の人々にとっては当たり前のことですがわたしたちにと

ってはなぜ？他の

方法があるだと

考えたくなります。

自然と共に生活す

る島人は、自然に

敏感で身の回りの

自然を誇りに思っ

ていました。



私たちが温かくむかえてくれたふしぎな動物たち。また、きつと会いましょう。その日まで元気だね！

非公開写真です！  
おぼえているかな??



## 来年は、西表島(いりおもてじま)に決定！

2年続けて、なきじん、渡嘉敷島へとキャンプを実施しましたが、来年は東洋のガラパゴス島といわれている西表に出発します。星の砂、水牛車、イリオモテヤマネコ、テールサンゴ、イリヤマボタル、マングローブのジャングル見たことがない自然がそこにあるのです。